

平成 21 年度事業報告

指定管理者制度の導入、公益法人制度改革、横浜市の財政状況の悪化など、当協会を取り巻く環境は、ますます厳しさを増す状況が続きました。

当協会は、このような環境変化に的確に対応し、横浜市のスポーツ振興施策の一翼を担う公益団体として、加盟団体をはじめ、スポーツ関連団体や市民の皆様との協働により、公益的使命の達成に努めました。特に、平成 21 年度は、横浜開港 150 周年と同じくして当協会 80 周年を迎え、横浜市と一体となり各種記念事業を展開しました。

さらに、横浜市と締結をしました「特定協約」や当協会が策定しました「中期経営計画」に基づき、各種事業を着実に実施しました。

◆平成 21 年度主な事業 (●:協会創立 80 周年記念事業 ★:協会創立 80 周年・横浜開港 150 周年記念事業)

実施月	事業名
4 月	28 日～5 日：★H. I. S. 2009 年世界卓球選手権横浜大会
5 月	5 日：★FANCL フィットネスヨコハマ 2009 ★ヨコハマ・ワールド・ウォーク 2009
7 月	4 日：第 6 回都市間交流スポーツ大会 (京都市)
8 月	2 日：★1000 万人ラジオ体操・みんなの体操祭 7 日～9 日：★YOKOHAMA ビーチフェスタ 2009 9 日：●泉区ソフトボール教室 22 日：★キッズカラダ向上プロジェクト 21 日：★世界こどもスポーツサミット in 横浜 22・23 日：★2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会 23 日：★世界キッズトライスロン大会 29 日他：●カヌースポーツ教室
9 月	5 日～8 日：第 22 回全国健康福祉祭北海道・札幌大会 12 日～13 日：●親子ヨット教室 27 日：●スポーツアーチェリー
10 月	11 日：★横浜元気！！スポーツ・レクリエーション・フェスティバル 2009 18 日：●港北区民バドミントン大会フェスティバル 30 日：●体協創立 80 周年記念式典・記念誌の発行
11 月	8 日：●横浜ホースフェスティバル／瀬谷区スポーツフェスティバル 21 日：●体協フェスタ@yokohama 29 日：●第 29 回横浜マラソン大会
12 月	24 日：●ヨコハマから体操のオリンピック選手を
1 月	1 日～11 日：●横浜市民スキースクール 15 日：●第 44 回新春スポーツ人の集い
2 月	7 日：●緑区バドミントン協会創立 25 周年普及交流大会 11 日：●南区スポーツフェスタ 14 日：第 64 回市町村対抗「かながわ駅伝」競走大会
3 月	27 日：●さわやかスポーツフェスティバル

通年事業
 ※市民体育大会
 ※市民マスタースポーツ大会
 ※神奈川県総合体育大会
 ※横浜熱闘倶楽部

1 競技スポーツの推進事業

競技スポーツの普及振興を図るため、横浜マラソン大会ほか、各種大会の開催や協会主催の大会以外にも選手・団体を派遣しました。

また、横浜開港 150 周年を記念した国際大会の開催支援と横浜市体育協会創立 80 周年の感謝の気持ちを込めて、市民参加型の記念イベントを開催しました。

(1) 横浜市体育協会創立 80 周年記念事業

協会創立 80 周年（平成 21 年）を記念し、各専門委員長を委員とする特別委員会を中心に、加盟団体実施記念事業や記念式典の実施、記念誌の作成を行いました。

また、80 周年を機に、さらに市民の認知度やイメージのアップを図るため、記念物品の製作・配布や、着ぐるみの貸出、各種広報媒体への掲載など市民への PR をより積極的に実施しました。

ア 横浜市体育協会創立 80 周年記念式典

開催日：平成 21 年 10 月 30 日（金）

開催場所：ロイヤルホールヨコハマ

参加人数：642 名

イ 横浜市体育協会創立 80 周年記念誌

（記念式典において配布）

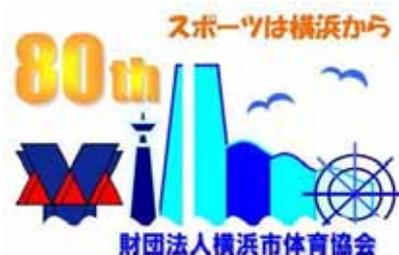
作成部数：950 部 頁数：112 頁



創立 80 周年記念誌



創立 80 周年記念式典



80 周年記念ロゴマーク

ウ 加盟団体実施記念事業

実施団体数：12 団体 助成金額：200 万円（総額）

実施期間：平成 21 年 9 月 4 日から平成 22 年 3 月 24 日

延べ参加者：4,194 人



親子ヨット教室



スポーツツアーを楽しむ

エ 市民参加型記念イベント

(ア) 1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭

開催日：平成21年8月2日（日）

開催会場：赤レンガパーク

参加人数：10,000人



ラジオ体操

(イ) キッズカラダ向上プロジェクト

開催日：平成21年8月22日（土）

開催会場：赤レンガパーク

参加人数：581人

(ウ) 体協フェスタ@yokohama

開催日：平成21年11月21日（土）

開催会場：新都市プラザ（横浜そごう正面入口前）

参加人数：1,022人



体協フェスタ@yokohama

(エ) さわやかスポーツフェスティバル

開催日：平成22年3月27日（土）

開催会場：横浜みなとみらいスポーツパーク

参加人数：276人

オ 記念品の配布・販売

当協会キャラクター「キャプテンわん」のぬいぐるみ、ストラップ、タオル、うちわなどの配布及び販売【9種類約25,000個】

カ 着ぐるみの貸出等

当協会キャラクター「キャプテンわん」の着ぐるみを、80周年記念事業や開国博Y150ほか各種イベント等に出演【27回】

キ その他

80周年記念横断幕を市民大会や開国博Y150など各種大会・イベント時に掲出【50回】



さわやかフェスティバル



キッズカラダ向上プロジェクト
（赤レンガストリート陸上）



キッズカラダ向上プロジェクト
（体操教室）



横浜F・マリノスホームゲーム戦



神奈川県大ダンスパーティ

(2) 各種スポーツ競技大会の開催

開港 150 周年を記念して、開港 4 都市の選手を招聘した横浜マラソン大会やビーチフェスティバル等各種大会を開催しました。

ア 第 6 回都市間交流スポーツ大会

開催日：7 月 4 日（土）～7 月 12 日（日）

開催地：大阪市

実施競技：軟式野球ほか 10 競技

参加人数：231 人

イ 第 29 回横浜マラソン大会

開催日：11 月 29 日（日）

コース：山下公園スタート・山下ふ頭フィニッシュ

参加人数：8,506 人



第 29 回横浜マラソン大会

ウ 市民体育大会・市民マスターズスポーツ大会

(ア) 市民体育大会

開催日：平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

実施競技：卓球ほか 31 競技

参加人数：34,539 人

(イ) 市民マスターズスポーツ大会

開催日：平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

実施競技：ハンドボールほか 20 競技

参加人数：6,327 人

エ YOKOHAMA ビーチフェスタ 2009

(ア) ビーチバレー

開催日：8 月 7 日（金）～8 月 9 日（日）

開催会場：金沢区海の公園

参加人数：2,068 人

(イ) ビーチハンドボール

開催日：8 月 7 日（金）～8 月 9 日（日）

開催会場：金沢区海の公園

参加人数：870 人



ビーチフェスタ

(ウ) ビーチサッカー

開催日：8 月 8 日（土）～8 月 9 日（日）

開催会場：金沢区海の公園

参加人数：390 人

オ 各区交流スポーツ大会

開催日：平成 21 年 8 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日

事業名：横浜市長旗争奪各区対抗軟式野球大会 全 8 大会

参加人数：1,706 人

(3) 各種大会への選手派遣・参加

ア 神奈川県総合体育大会

開催日：平成21年8月2日～平成22年3月7日

実施競技：バドミントンほか13競技

会場：県立体育センター他

派遣人数：220人

成績：総合6位



県総体(水泳)

イ 第64回市町村対抗「かながわ駅伝」競争大会

開催日：平成22年2月14日(日)

対象：横浜市選抜チーム

コース：秦野市立中央運動公園～厚木市合同庁舎～
相模湖公園：7区間 51.5 km

派遣人数：選手・役員20人

成績：優勝



第64回かながわ駅伝大会

ウ 第22回全国健康福祉祭北海道・札幌大会参加選手選考会

開催日：平成21年4月15日(水)～6月7日(日)

実施競技：卓球ほか5種目 ※剣道のみ前年度実施

選考会参加者：456人

※本大会：平成21年9月5日(土)～9月8日(火)

(4) 国際大会の開催支援(横浜開港150周年記念事業)

「H. I. S. 2009年世界卓球選手権横浜大会」及び「2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会」等を、横浜市と一体となって取り組みました。

ア H. I. S. 2009年世界卓球選手権横浜大会

大会組織委員会事務局に職員を配置して、各種機関との調整業務等を行うとともに、大会開催期間中は、応援職員が運営を支援しました。また、本大会の練習会場として、港北スポーツセンターを提供し、その運営にも協力しました。

広報では、「ハマスポどっとコム」における「キャプテンわん・世界卓球挑戦編」の連載等により大会開催の周知を図りました。

<大会概要>

開催期間：平成21年4月28日(火)～5月5日(火)

会場：横浜アリーナ

競技種目：男子シングルス、女子シングルス、
男子ダブルス、女子ダブルス、
混合ダブルス

参加国・地域：145協会 1,382人の選手と役員

入場者数：64,829人(大会期間中8日間の合計)

日本選手団の主な成績：男子ダブルス 銅メダル 水谷隼/岸川聖也



決勝戦

イ 2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会等

実行委員会事務局に職員を配置し、「2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会」「世界キッズトライアスロン大会」「世界子どもスポーツサミット」の3事業が市民にとって魅力あるイベントになるように、横浜市関係局や関係機関と協力連携して実施しました。

また、この大会の開催周知のため、主会場となる山下公園前海域で1カ月前イベントも実施するとともに、「SPORTSよこはま」や「ハマスポどっとコム」の媒体を利用してPR活動を行いました。

<大会概要>

■2009 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会

開催期間：平成21年8月22日（土）23日（日）

コース：山下公園・関内地区周辺

参加者：32の国と地域 112名

日本選手団の主な成績：エリート女子 銅メダリスト 井出樹里

■世界キッズトライアスロン大会

開催日：平成21年8月23日（日）

コース：山下公園・山下ふ頭

参加者：30の国と地域 258名の選手

※キッズ②部門で、横浜市から参加した浜魅人君が優勝

※トライアスロン大会の2日間の観戦者延数：272,000人

■世界子どもスポーツサミット in 横浜

開催日：平成21年8月21日（金）

会場：パシフィコ横浜

参加者：16の国と地域 927名（観覧者含む）

「世界子どもスポーツ横浜宣言」を採択し、国際オリンピック委員会や世界トライアスロン連合の協力で、宣言文を世界に発信しました。



世界子どもスポーツサミット in 横浜



キッズトライアスロンスイム



キッズトライアスロン入賞者



女子エリート（ラン）



男子エリート（バイク）



横浜大会優勝者

2 スポーツ支援事業

スポーツの日常化を図るため、市民が自主的・自発的にライフステージに応じたスポーツライフを楽しめるような仕組みづくりをサポートしました。

(1) 地域スポーツ支援事業の実施

ア 各区体育協会との連携の強化

地域に密着したスポーツ団体である区体育協会との連携強化を図り、地域でのスポーツ振興を支援しました。また、「横浜市スポーツ振興基本計画」に基づき、広く一般区民を対象とした公益的事業活動の充実を目指し、自ら事務局体制の強化に取り組む 14 区体育協会に対して事務局運営支援を行いました。また、22 年度に体制変更を予定している、金沢区体協について、区、区体協と検討を進めました。

<平成 21 年度事務局運営支援実施区>

鶴見、西、中、南、港南、保土ヶ谷、旭、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、栄、瀬谷

イ 総合型地域スポーツクラブの支援

身近な場所で世代を問わず、誰もが気軽にスポーツができる環境づくりを目指し総合型地域スポーツクラブの設立、育成の支援を行いました。

- ・クラブが安定的に活動していくための経費補助（クラブ設立の準備や設立初期の経費補助など）
- ・クラブ事業の活性化に向けた啓発活動の実施（市内クラブの活動連携を図ることを目的に設立された「横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」と連携し、「横浜開港祭」や「市内クラブ交流会」等の市域イベントでの広報・PR 活動）
- ・財源確保のための情報提供・勉強会の実施（クラブ向けに「toto 補助金勉強会」を開催）



市内クラブ交流会



toto 補助金勉強会

総合型地域スポーツクラブ一覧（平成 21 年度末現在 11 区 18 クラブ）

区	クラブ名
神奈川区	NPO 横浜かもめ anima クラブ、はざわクラブ、まる倶楽部 NPO かながわクラブ、NPO ライフネットスポーツクラブ
中区	NPO F C ゴール、NPO 横浜スポーツ アンド カルチャークラブ
南区	弘明寺クラブ
旭区	若葉台スポーツ・文化クラブ
金沢区	金沢スポーツクラブ、NPO 横濱ラグビーアカデミー
緑区	やましたスポーツ・文化クラブ、NPO CLUB TEATRO
都筑区	都筑スポーツプランナー竹の子会
戸塚区	クローバースポーツクラブ
栄区	さかえスポーツくらぶ
青葉区	くろがね倶楽部
保土ヶ谷区	カンガルークラブ

ウ ヨコハマスポーツミーティングの開催

開催日：平成22年2月28日（日）

開催会場：慶應義塾 協生館

基調講演：「街とスポーツの未来」

講演者：傍士銚太

（慶應義塾大学大学院 講師・Jリーグ理事）



芝生のヒミツ

パネルディスカッション：「街のスポーツが変わる！芝生のヒミツ」

パネリスト：傍士銚太（慶應義塾大学大学院 講師・Jリーグ理事）

田中孝司（NPO 法人 ライフネットスポーツクラブ理事）

事例紹介：高田東小学校 学校開放文化スポーツクラブ

参加人数：41人

（2）スポーツイベントの実施

スポーツの普及振興のため、各種スポーツイベントを開催しました。

ア ヨコハマ・スポーツ・ワールド2009の開催（5月5日こどもの日）

（ア）FANCLフィットネスヨコハマ2009

開催日：平成21年5月5日（火・祝）

開催会場：パシフィコ横浜・国立大ホール

出演団体：60チーム1,995人

観覧者数：4,332人

合計：6,327人



FANCLフィットネスヨコハマ2009

（イ）ヨコハマ・ワールド・ウォーク2009

開催日：平成21年5月5日（火・祝）

開催会場：みなとみらい・山下地区

参加人数：4,696人



ヨコハマワールドウォーク2009

イ 横浜元気！！スポーツ・レクリエーション

フェスティバルの開催（体育の日ほか）

開催日：9月20日～11月15日（体育の日を中心）

開催会場：36会場（17スポーツセンター・野外活動施設、日産スタジアム、横浜文化体育館等）※全体41会場

参加人数：79,265人（※全体：197,593人）



新横浜公園（親子サッカー教室）



保土ケ谷SC（体操教室）



本牧プール（インライン教室）

ウ エンジョイスポーツ事業（市民スポーツ教室の開催）

市民にいろいろな種目の競技スポーツに親んでもらうため、加盟競技団体の協力により児童・生徒の陸上競技教室などを実施しました。

開催日：4月19日（日）～3月28日（日）

教室数：14教室

参加人数：2,248人

（3）さわやかスポーツの実施

子どもから高齢者まで、誰でも気軽に行えるさわやかスポーツ（インディアカ・グラウンドゴルフ等）の普及事業を全市的に展開し、市民のスポーツ実施率向上を目指すとともに、スポーツ実施に係るノーマライゼーションを推進しました。

特に21年度は普及事業の継続的発展を目的としたさわやかスポーツフェスティバルの中で全市レベルとしては初のグラウンドゴルフ大会をみなとみらいスポーツパークで開催しました。

さわやかスポーツ普及活動の実績（全市合計）

事業名	開催回数	参加人数（延べ人数）
地区活動	3,931回	104,658人
各区大会	30回	3,373人
各区フェスティバル	82回	12,099人
講習会	37回	809人
普及委員会	136回	1,820人
その他	1,131回	87,935人
合計	5,347回	210,694人



わなげ



ペタンク



グラウンドゴルフ

3 健康・体力づくり事業

高まる健康に対する市民ニーズに応え、市民の豊かな生活の基本である健康づくりを推進するため各種事業を実施しました。

(1) 高齢者の健康づくり支援

定期的な運動を楽しく、効果的に実施することで運動機能の維持・向上を目指した介護予防事業の実施や地域において高齢者がいきいきとした生活を送るために、身近な場所で運動をする機会を増やすための仕組みづくりを支援しました。



はまちゃん体操

- はまちゃん体操普及事業及びテキスト・ビデオ・DVD等の教材販売
- 高齢者体操・レクリエーション指導者養成講座（介護予防部門）の実施（11回）
- 地域ケアプラザ等での健康づくり指導の実施
- 体力向上プログラム（介護予防講座）の実施（18区 388回）
- 介護予防リーダー等の地域人材育成研修の実施
- 横浜市はつらつシニアプログラム従事者研修の実施（4回）

(2) 子どもの体力向上支援

小中学校の児童・生徒の体力向上や競技力向上を目指し、教育課程内外での運動・スポーツ活動を支援する各種事業を実施しました。

ア いきいきキッズモデル事業

学校・家庭・地域が連携して、子どもの体力向上への取組みが継続的に展開できる仕組みづくりの支援を行いました。これは学校や教育委員会、PTA等と調整を図りながら、各学校のニーズに応じた事業の企画・提案・実施を行うものです。具体的には小学校中休み時間等を活用し、気軽に外遊びができるプログラムの紹介により、遊びを通じた基礎体力づくりの機会の提供を行うとともに、保護者への運動・スポーツや健康・体力づくりの重要性の啓発事業を行うことで子どもの体力向上を目指しました。



中休みプログラム

※実施校：市立小学校 47校 726回

イ 横浜市ジュニア・部活動サポート事業

(ア) スポーツ医科学研修

開催日：開催日：平成21年7月10日～10月28日 全9回

テーマ：「熱中症の予防とスポーツ中の事故」 ほか8回

対象者：横浜市立中学校運動部顧問教諭、競技団体指導者 ほか
参加人数：82人

講師：スポーツ医科学センター医師・管理栄養士・理学療法士
スポーツ科学員・指導員

(イ) シンポジウム～陸上トレーニング編～

会 場：スポーツ医科学センター研修室
日産スタジアム雨天走路

開 催 日：平成 22 年 3 月 6 日

対 象 者：横浜市立中学校運動部顧問教諭
競技団体指導者、地域指導者 ほか

参加人数：41 人

講 師：日本オリンピック委員会アスリート委員
谷川 聡
スポーツ医科学センター科学員
持田 尚



陸上シンポジウム（講習会）



陸上シンポジウム（実技）

(ウ) ジュニアスポーツクリニック

開 催 日：平成21年4月1日～平成22年3月31日

対 象 者：中体連の陸上競技、サッカー、バスケットボール部活動生徒ほか

実施内容：サッカー外傷予防測定人数：64人

陸上外傷予防調査人数：41人

バスケットボール外傷予防発生調査：121 校

(3) ぜんそく児童の健康づくり事業

ぜんそくの児童を対象としたサマースクール事業及びぜんそく児水泳教室を横浜市から受託し、医師会、小学校等の協力を得て、児童の健康づくり、体力づくりを実施しました。

ア サマースクール

規則正しい集団生活を送りながら、海水浴など野外活動を通じて丈夫な体づくりを学ぶ機会とプログラムの提供を行いました。

開催日：平成 21 年 7 月 29 日（水）～8 月 1 日（土） 3 泊 4 日

会 場：神奈川県立三浦ふれあいの村

参加人数：100 人



サマースクールでの
乾布まさつ



4 スポーツ人材の養成・育成・活用事業

地域や各種目で活動できるスポーツ指導者を養成するとともに、指導者の活動促進を図りました。

(1) 競技スポーツ指導者養成事業の実施

講座名	受講者数
競技指導者養成講習会(コーチングセミナー)	40人
指導者技術向上補助事業	636人

(2) 地域スポーツ指導者養成事業の実施

講座名	受講者数
市民健康・体力づくりインストラクター養成講座	44人
地域クラブ・アシスタント養成講座	20人
野外活動指導者養成講座	19人
スポーツリーダー講習会	85人
地域スポーツ研修	89人



研修風景

(3) 地域スポーツ指導者の活動促進

ア 横浜市スポーツ人材活用システムの運用

自治会、区民利用施設、区役所など地域からの要望の高い「健康・体力づくり」や「介護予防」に関する指導、講演依頼などに対応できる指導者育成と活用を行う登録システムを区単位で運用しました。また、登録者には安全研修（AED実習）や情報交換会等を実施し、指導者スキルの充実を図りました。

横浜市スポーツ人材活用システム 活用件数一覧

活動登録者数(人)	活用件数(延べ・件)	指導対象者数(延べ・人)
307	2,317	57,186

イ 地域スポーツ指導者の活動促進

地域のスポーツ指導者を集め、研修会・シンポジウムを行いました。

(ア) 高齢者向けコーディネーショントレーニング

平成21年11月7日(土) 10時～12時

神奈川スポーツセンター 第1体育室

講師：NPO 法人日本コーディネーショントレーニング協会

参加者 87名

(イ) カラダに効くやさしいスロートレーニング

平成22年3月6日(土) 10時～12時

神奈川スポーツセンター 第1体育室

講師：スポーツ医科学センター

参加者 81名



研修風景

(4) ジュニアスポーツの推進

ア スポーツ少年団

市内のスポーツ少年団を対象とした、研修・交流・顕彰事業や市民向け事業、県スポーツ少年団主催スポーツ交流大会等への派遣事業等を行いました。

○登録数

サッカーほか10競技39団体

指導者数：154人

団員数：667人

イ スポーツ少年団各種顕彰事業

リーダー会：年3回

ウ 交流活動事業

(ア) 横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル

体力測定コーナーの展開

開催日：平成21年10月12日(月・祝)

会場：日産スタジアム東ゲート広場

参加人数：615人

(イ) 第13回ジュニアスポーツフェスティバル

開催日：平成22年3月13日(土)

会場：横浜文化体育館

参加人数：500人

(ウ) 各種交流事業等への派遣

開催日：平成21年4月1日～平成22年3月31日

参加人数：350人



スポーツ少年団



ジュニアスポーツフェスティバル

(5) ジュニア競技力向上事業の実施

ジュニアスポーツ選手の養成のため強化練習やスポーツ科学に基づくスポーツプログラムサービスを実施しました。

ア ジュニアSPS事業(スポーツ医科学センター：スポーツ版人間ドック)

開催日：平成21年4月1日～平成22年3月31日

競技名：陸上競技ほか2競技

参加人数：39人

イ 合同強化練習

開催日：平成21年4月1日～平成22年3月31日

競技名：サッカーほか14競技

参加人数：885人

5 スポーツ施設管理・運営事業

横浜市の財産であるスポーツ施設を効率的・効果的かつ、市民が安全に安心して快適に利用できる運営・管理を行いました。

(1) 横浜市各区スポーツセンター

年間利用実績(事業所別利用状況は P43)

スポーツセンター17施設において、区民大会やスポーツ団体の大会として利用促進を図るとともに、個人のトレーニング等のスポーツ施設として区民が身近なところで気軽にスポーツを楽しみ、健康の保持増進に努めることのできるよう、スポーツ・レクリエーション活動の普及振興を図る事業を行いました。

種別	団体数・人数
団体利用	120,495 団体 3,355,816 人
個人利用	1,073,756 人
合計	4,429,572人

このほか、地域性を考慮した特色あるスポーツ教室の開催や施設の有効活用を図るため、引き続き早朝・夜間での開館時間の延長を行い、区民のスポーツ活動の機会を拡大しました。



親子体操教室

ア スポーツ教室の実施

幼児体操、親子体操、卓球、バドミントン、ヨガ、太極拳、エアロビクス教室等年間9,655教室（昨年度より504教室増）を開催しました。延べ参加者数は877,925人（昨年度より51,644人増）の参加がありました。



健康体操教室

イ 駐車場事業の実施

スポーツセンター13施設及び平沼記念体育館の有料駐車場の管理運営を行いました。

ウ 開館時間の延長及び利用者サービスの実施

施設の有効活用を図るため、開館時間の延長を実施していない施設においては、実施に向けて近隣地域住民の方々と区民のスポーツ活動の機会拡大に向けて話し合いを行いました。また、自動販売機の増設やビブスなどのスポーツ用品の貸出し、好評を得ているレンタルロッカーの増設を行い利用者サービスの向上に努めました。

(2) 横浜市平沼記念体育館

常設の観覧席（264席）があり、小規模の各種スポーツ大会の開催に適した体育館の管理運営を行いました。また、ビブスやシューズ、ボールなどのスポーツ用品の貸出しを行い、利用者サービスの向上に努めました。

年間利用実績（月別利用状況は P44）

種別	団体数・人数
団体利用	1,882 団体 131,753 人



卓球大会

(3) 横浜市少年自然の家

赤城林間学園（群馬県昭和村）及び南伊豆臨海学園（静岡県南伊豆町）において、海や山などの恵まれた自然環境を生かしたカッター訓練や自然観察をはじめ、創作活動、野外料理、農業体験など多様な野外活動プログラムを提供し、青少年の健全育成はもとより、幅広い市民層へ野外活動の普及振興を図りました。また、海浜活動やスキー、ハイキングを体験する青少年キャンプやファミリーキャンプ等の野外活動教室の開催、特別料理の提供などの自主事業を行いました。



カッター体験

年間利用実績（月別利用状況は P45）

施設名	団体数	実人数	延人数
赤城	376 団体	14,068 人	38,571 人
南伊豆	200 団体	10,295 人	30,309 人
合計	576 団体	24,363 人	68,880 人

野外活動教室の実施

施設名	団体数	実人数	延人数
赤城	5 教室	186 人	584 人
南伊豆	9 教室	266 人	819 人
合計	14 教室	452 人	1,403 人

(4) 横浜市青少年野外活動センター

市内の三ツ沢公園（神奈川区）、くろがね（青葉区）及びこども自然公園（旭区）の身近なセンターと、市外の道志村（山梨県）のセンターにおいて、野外料理や野外ゲーム、テント生活などの野外活動プログラムを提供し、青少年の健全育成はもとより、幅広い市民層へ野外活動の普及振興を図りました。

また、幼児から大人までの幅広い市民層に対応した青少年キャンプやファミリーキャンプ、スポーツ活動等の野外活動教室の開催、炊事用食材販売などの自主事業を行いました。

◆年間利用実績（月別利用状況は別紙 P45）

施設名	団体数	実人数	延人数
三ツ沢	888 団体	20,318 人	26,852 人
くろがね	1,314 団体	18,238 人	21,348 人
こども自然	949 団体	22,294 人	30,809 人
道志	518 団体	5,832 人	8,716 人
合計	3,669 団体	66,682 人	87,725 人



テント体験

野外活動教室の実施

施設名	教室数	実人数	延人数
三ツ沢	16 教室	2,190 人	3,616 人
くろがね	15 教室	1,217 人	3,117 人
こども自然	20 教室	1,300 人	2,846 人
道志	2 教室	260 人	778 人
合計	38 教室	4,967 人	10,357 人



野活ゲーム

(5) 横浜文化体育館

ア 指定管理事業

研修会や各種集会・イベント等、お客様が安心して快適にご利用されるよう保守点検、イベントの事前打合せ等きめ細かい運営管理を行いました。

平成 21 年度は、第 24 回皇后杯全日本女子柔道選手権大会、2009 国際ジュニア体操競技選手権大会、第 76 回全日本学生卓球選手権大会、第 17 回全国高等学校ロボット競技大会、国立ポリショイサーカスや開港 150 周年・大相撲横浜場所、第 31 回消費者と商店街を結ぶ集い「天童よしみショー」など国内・国際レベルのスポーツ大会、コンサートやサーカス等の、スポーツ・文化・レクリエーション等の多様なイベントが開催されました。また、地域指導者の育成及び横浜開港 150 年・横浜市体育協会創立 80 周年記念事業「1,000 万人ラジオ体操・みんなの体操祭」の支援として、「ラジオ体操指導者養成研修会」を実施しました。

イ 自主事業

夏休みを利用して、横浜・東京及び赤城林間学園（群馬県・昭和村）がある群馬県周辺の子供たちと、元オリンピック代表選手の指導のもと、ハマフープバスケットボールのサマーキャンプを開催し、技術の向上と横浜市と昭和村の連携強化を行いました。また、多くの市民がスポーツに親しむことができるように施設の立地条件を生かし、夜間の時間帯の有効活用を図るため、フットサルやバスケットボール等の市民利用促進を行いました。

年間利用実績（月別利用状況は P46）

種 別	人 数
スポーツ行事	209,056 人
文化行事	62,096 人
興行	83,000 人
平沼記念レストハウス	64,033 人
合 計	409,407 人



国際ジュニア体操
競技選手権大会

主な大会・行事等

主な大会・行事名	開催月	入場者数
第 24 回皇后杯全日本女子柔道選手権大会	4 月	1,710 人
JOC ジュニアオリンピックカップ（レスリング）	4 月	6,252 人
2009 国立ポリショイサーカス	7・8 月	48,246 人
2009 全日本ジュニア体操競技選手権大会	8 月	13,694 人
2009 国際ジュニア体操競技選手権大会	9 月	3,374 人
第 76 回全日本学生卓球選手権大会	10 月	5,000 人
横浜開港 150 周年記念・大相撲横浜場所 2009	10 月	3,915 人
第 17 回全国高等学校ロボット競技選手権大会	11 月	3,857 人
日本卓球リーグプレーオフ JTTL ファイナル	12 月	3,545 人
b j リーグシーズンリーグ 2	2・3 月	3,008 人
第 33 回消費者と商店街を結ぶ集い	2 月	7,643 人

(6) 新横浜公園/日産スタジアム等

指定管理者として横浜市体育協会・横浜マリノス・管理JV共同事業体(株式会社ハリマビシステムほか4社)3者の共同事業体として、日産スタジアムを含む公園(43.3ha)の管理運営を行いました。

また、ISO14001の推進、フリーマーケットでのカーボンオフセット実施、スタジアム内でのリユースカップの使用推進など、環境に配慮した「エコスタジアム」としての取組を推進しました。

平成21年度の新横浜公園の総利用人数は、1,840,506人でした。

年間利用実績(月別利用状況はP47)

新横浜公園	人 数
日産スタジアム	1,011,028人
フリーマーケット(日産スタジアム)	401,000人
日産ウォーターパーク	163,861人
日産フィールド小机	40,080人
新横浜公園内有料施設	106,157人
しんよこフットボールパーク	97,562人
新横浜公園内無料施設(イベント利用のみ)	20,818人
合 計	1,840,506人



ジュニアオリンピック陸上競技大会

ア 指定管理事業

(ア) 日産スタジアム・日産フィールド小机

国内最大の7万2千人が収容できるスタジアムの管理運営を行いました。平成21年度は、国際試合2試合(2010FIFAワールドカップ南アフリカ大会最終予選等)をはじめ、Jリーグ18試合(カップ戦、天皇杯を含む)、第40回ジュニアオリンピック陸上競技大会、コンサート等が開催されました。

また、日産フィールド小机では、各種市民大会や日産スタジアムの補助競技場として試合や大会前の練習場所として利用された他、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2009 in新横浜(がん患者支援イベント)やメイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン 第4回チャリティ駅伝2009(難病の子供支援イベント)といったチャリティイベントも開催されました。

年間利用実績(月別利用状況は P47)

日産スタジアム	人 数
大会・イベント等	989,012人
サッカー	521,281人
国際大会	121,541人
Jリーグ等	397,090人
アマチュア	2,650人
陸上競技	45,797人
イベント・その他	421,934人
NSAA(陸上教室)	8,506人
トラック個人利用	9,515人
ワールドカップスタジアムツアー	3,035人
スタジアムウエディング	230人
視察	730人
小 計	1,011,028人
フリーマーケット	401,000人
合 計	1,412,028人

日産フィールド小机	人 数
大会・イベント等	31,095人
トラック個人利用	8,985人
合 計	40,080人



キリンチャレンジカップ

主な大会・イベント等実績

大会名・イベント名	開催月	入場者数
日産スタジアム		
2010FIFA ワールドカップ南アフリカ大会最終予選(日本代表 VS カタール代表)	6月	60,256人
GLAY コンサート	8月	109,600人
キリンチャレンジカップ2009(日本代表 VS スコットランド代表)	10月	61,285人
第40回ジュニアオリンピック陸上競技大会	10月	41,597人
第19回よこはま国際ちびっこ駅伝大会	3月	30,000人
日産フィールド小机		
リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2009 in 新横浜	9月	1,500人
メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン 第4回チャリティ駅伝 2009	12月	1,000人

(イ) 日産ウォーターパーク (温水利用型の健康運動施設)

温水を利用した22種類のプール施設の管理運営を行いました。

また、年間を通して市民に利用されるとともに、市民の健康増進を図る教室事業や遊具で遊ぶ「わくわくアクアランド」やウォータースライダーの滑走タイムを競う「ウォータースライダータイムトライアル」などのイベントを行いました。その他、期間限定で古い角質を餌としてついばむ「ドクターフィッシュ」の体験コーナー設置や幼児・小学生を対象に「絵画コンテスト」を開催し、作品の展示をしました。

年間利用実績 (月別利用状況は P47)

・開所日：334日 ・利用人数：163,861人

(ウ) 投てき練習場・運動広場 (1・2)・野球場・テニスコート

(新横浜公園内有料施設)

投てき練習場、運動広場1、野球場、テニスコートに加え、10月から運動広場2が暫定オープンしました。また、6月より週3日、初級及び中級者向けのテニス教室を開講しました。

年間利用実績 (月別利用状況は P47)

施設名	人数
投てき練習場	19,879人
野球場	11,823人
運動広場1	17,757人
運動広場2	2,031人
テニスコート	54,667人
合計	106,157人



テニス教室

(エ) スケボー広場・インラインスケート広場 (1・2)・バスケットボール広場
公園内園路等 (新横浜公園内無料施設)

スケートボード、インラインスケート、BMX (競技用の自転車) が利用できるスケボー広場及びインラインスケート広場 (1・2)、バスケットボール広場の管理運営を行いました。また、子供向けのスケボー教室やインラインスケート教室を開催した他、公園内園路では駅伝及びマラソン大会等の利用がありました。

年間イベント利用実績 (月別利用状況は P47)

・開催日 : 65 日 ・利用人数 : 20,818 人

イ 自主事業の実施

しんよこフットボールパークの管理運営を行うとともに、自主事業イベントを実施しました。さらに、フリーマーケットでのカーボンオフセットの実施及び環境関連イベントの開催など環境に配慮した取り組みを推進しました。(カーボンオフセット : 日常生活や経済活動によって排出される二酸化炭素を、何か別の手段を用いて相殺しようという考え方。)

(ア) しんよこフットボールパークの管理運営

新横浜公園第1駐車場内に位置するしんよこフットボールパーク (人工芝コート) の管理運営を行いました。

年間利用実績 (月別利用状況は P47)

・利用団体数 : 2,623 団体 ・団体利用人数 : 97,562 人

(イ) 新規事業

①生涯ランナー及びサッカープレイヤーのスポーツセーフティトレーニング

生涯スポーツをケガすることなく楽しむための体づくりを目的に、手軽に行えるセルフトレーニング教室を実施しました。



スポーツセーフティトレーニング

②ちょっと大人のためのサッカーフェスティバル

40歳以上のシニアプレイヤー及び男女混成チームを対象に開催しました。

③クリスマス親子サッカーフェスタ 2009

午前と午後で小学校低学年と高学年に分けて募集し、スポーツターフの話や親子サッカー教室を開催しました。

◆新規事業実績

事業名	開催日	参加人数
生涯ランナー及びサッカープレイヤーのスポーツセーフティトレーニング	7月25日	50人
ちょっと大人のためのサッカーフェスティバル	9月12・13日	240人
クリスマス親子サッカーフェスタ 2009	12月19日	128人

(ウ) 日産スタジアム アスレティクスアカデミー (NSAA)

日産スタジアムが第一種公認の陸上競技場である利点を活かし、東海大学教授高野進氏を代表とする、陸上競技関連の会員制教室事業である「日産スタジアム アスレティクスアカデミー (NSAA)」を実施し、会員（小学生以上）に指導を行いました。その他に、教育支援の一環として、区内の小学校を対象に高野進氏が直接出向き、運動の楽しさと正しい走り方を教える出前教室「NSAA 浜っ子かけっこ教室」や港北区との共催で、初心者向けのランニング教室を実施しました。（平成 22 年 3 月現在の会員数 133 人）



NSAA かけっこ教室

(エ) その他の自主事業

① Y150 ヒルサイド 環境創造局ブースに日産スタジアムコーナー出展

横浜開港博 Y150 ヒルサイド竹の海原会場にエコスタジアムやスタジアムボランティアの PR、芝生の出展展示を行いました。

② サイクルパークフェスティバル

一定時間内に公園内コース（1 周約 3 キロ）を周回する「エンデューロ」を実施しました。

③ 日産スタジアムサッカー教室

障害者の部、子どもの部（低学年・高学年）に分けて実施しました。

④ インターナショナル・フットボール・フェスティバル

身近な国際交流として、インターナショナルスクールの学生や外国人記者クラブの方々と公募一般市民チームによるフットサル交流戦を開催しました。

⑤ 日産スタジアム駅伝大会

日産スタジアムをスタート・中継・ゴールとした駅伝大会を開催しました。

⑥ 日産スタジアム杯少年サッカー大会（平成 22 年 2 月 21 日決勝戦実施）

市内各区の小中学生が日産スタジアムでの決勝戦を目指す少年サッカー大会で、今年度は 12 回目。全 44 試合が行われました。

その他の自主事業実績

事業名	開催日	参加人数
Y150 ヒルサイド 環境創造局ブースに日産スタジアムコーナー出展	8 月 22・23 日	約 850 人
サイクルパークフェスティバル	10 月 3 日	2,700 人
日産スタジアムサッカー教室	1 月 10・11 日	301 人
インターナショナル・フットボール・フェスティバル	1 月 17 日	378 人
日産スタジアム駅伝大会	2 月 20 日	3,052 人
日産スタジアム杯少年サッカー大会	1～2 月	4,350 人



ヒルサイド 出展コーナー



インターナショナルフットボール



サイクルパークフェスティバル

ウ 環境への取組

(ア) カーボンオフセットフリーマーケットの開催

(平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月)

平成 21 年度は、23 回開催し、フリーマーケットに訪れた車輛から排出されたと考えられる CO2 排出量合計約 260 トンをオフセットしました。

(イ) 歳時記イベントの開催

新横浜公園における季節感を創出し、スポーツ利用以外の公園利用を促進し、賑わいづくりを行いました。(こいのぼり、たなばた、中秋の名月・虫の音鑑賞会、クリスマスクイズラリー、餅つき&しめ縄作り、凧揚げの会)



しめ縄作り

(ウ) 環境関連イベントの開催 (平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月)

新横浜公園の自然を活かして、市民活動団体が企画・実施する、環境関連イベント支援事業を公募し、実施しました。新規事業として蝶が吸蜜する植物を植えて多くの蝶を飛来させ、観察会等を実施する「バタフライガーデン」を実施しました。また、平成 20 年度からの継続事業としては、30～40 年前にはこの地に生息していたヘイケボタルを復活させる試みである「新横浜公園ヘイケボタルの里づくり」と水辺の生き物に触れ合う「新横浜公園生きもの探偵団」さくらそうの自生地を復活させる試みである「新横浜公園さくらそうの水辺をつくろうプロジェクト」、地元町内会との共催による鶴見川流域の自然や文化について学ぶ「地域の伝統文化を体験し自然を学ぶ会」の 4 事業を実施しました。これらの環境関連イベントの実施に伴い、地元の小・中学校との連携が実現しました。



生きもの探偵団

このほか、環境創造局港北水再生センターと合同で「水環境学習とエコスタジアムを知る」をテーマとした施設見学会や鶴見川流域水協議会との共催イベント「夏休み！鶴見川多目的遊水地体験サマースクール」を実施しました。

(エ) ISO14001 の推進

新横浜公園の環境方針等を定めた環境マネジメントシステムを構築し、平成 20 年 8 月 1 日から運用を開始しました。その後 3 回の審査を経て平成 21 年 2 月 25 日に ISO14001 の認証を取得しました。平成 21 年度は、システムのスリム化改善を行い、平成 22 年 1 月 7 日にサーベイランス審査を受け、指摘事項なく終了しました。

(7) 横浜市スポーツ医科学センター

市民の健康づくりの推進・スポーツの振興・競技選手の競技力の向上を目的に、クリニック（内科・整形外科・リハビリテーション科）にアリーナ、25m プール、トレーニングルームなどを併設した施設の運営を行いました。

また、スポーツ医科学に関する情報提供、学会等での研究発表、各区福祉保健センター等での出張講演などの事業も実施しました。



クリニック

ア スポーツプログラムサービス（SPS）

医学的検査・運動負荷試験・体力測定の実施結果により、生活・栄養・運動について、医師・管理栄養士・スポーツ科学員などの専門スタッフがアドバイスをを行うスポーツ版人間ドック（スポーツプログラムサービス）を実施しました。



SPS（栄養相談）

イ クリニック

（内科・整形外科・リハビリテーション科）

一般的な内科・整形外科の診察からトップアスリートに対する診察まで、スポーツドクターなどの資格を持つ医師が診察を行い、疾病の予防・改善や症状の緩和・消失に運動療法を積極的に取り入れました。

特定健康診査・特定保健指導については、専門スタッフ（医師・保健師・管理栄養士・指導員（健康運動指導士））による組織的なサポート体制の下、横浜市国民健康保険加入者の受託機関として144人の特定健康診査、31人の特定保健指導を実施しました。

ウ メディカルエクササイズコース（MEC）

積極的に運動することで改善が望める内科的・整形外科的疾患を抱えた方を対象にした医学的運動療法教室としてアリーナ・プールの2コースを設置、医師の運動処方に基づいて、専門の資格を持つ指導員が運動指導を行いました。

エ 教室事業

体操・水泳・トレーニングのスポーツ教室を開催しました。また、太極拳・フラダンス・社交ダンス・ヨガなどの健康教室、専門スタッフによる減量教室や測定結果から分析して姿勢・歩き方を改善するバランス・歩行教室など、目的に応じた教室も開催しました。また、横浜市からの委託事業であるぜんそく児水泳教室も実施しました。



減量教室

オ 競技力向上事業

競技選手の競技力向上をサポートするため、地元のプロや実業団のスポーツチーム、トップアスリートなどを対象として、メディカルチェックや各競技に則した専門的な動作分析・スキルチェックや体力測定など実施しました。



競技力向上事業（体力測定）

年間利用実績（月別利用状況は P47）

種別	人数
指定管理事業	
スポーツプログラムサービス	2,713 人
一般	1,562 人
高齢者・障害者	289 人
ジュニア	455 人
その他	407 人
スポーツ外来・リハビリテーション	67,868 人
内科	7,099 人
整形外科	17,079 人
内科系運動療法	307 人
整形外科系運動療法	29,712 人
MEC（メディカルエクササイズコース）	13,671 人
施設利用	130,354 人
アリーナ	43,693 人
研修室・会議室	57,891 人
プール	15,564 人
トレーニングルーム	13,206 人
その他事業（ライブラリー等）	63,122 人
指定管理事業計	264,057 人
自主事業	
アスリート	1,429 人
スキルチェック	59 人
フォロー事業	61,053 人
その他	528 人
自主事業計	63,069 人
合計	327,126 人

カ ジュニア競技力向上事業

横浜市のジュニア競技者に対して、競技力の向上と外傷予防を目的に動作分析や体力測定などを行うジュニアスポーツクリニックや、各競技団体のジュニア選手に体力測定や各競技特性に合わせた測定などを行うジュニア SPS などを実施しました。また、ジュニア期を指導する指導者に対し「スポーツ医科学研修」を実施しました。

キ スポーツ医科学の研究

医師・理学療法士・スポーツ科学員などが研究の成果を論文などにして、日本臨床スポーツ医学会や日本整形外科スポーツ医学会などで発表・報告などを行ないました。

ク その他

研修室・会議室、大・小アリーナの貸出や個人利用者に対するトレーニングルーム、25m プールの提供、広報誌やホームページを通してスポーツ医科学に関する情報提供や学会等での研究及び研究成果の発表、学会発表内容をギャラリーで掲示、各区福祉保健センター等での講演などを実施しました。



栄プール

(8) 屋外・屋内プール

屋内プール6施設（旭、港南、栄、保土ヶ谷、都筑、金沢）及び屋外プール2施設（横浜プールセンター、本牧市民プール）の運営を行い、市民のスポーツ・レクリエーションの普及・振興、健康増進に寄与しました。

一般利用に加えて屋内プールでは、水泳教室のほかに会議室等を利用して体操教室を開催しました。

また、屋外プールのオフシーズンにおける施設の有効活用を図るため、インラインスケート団体やCM撮影、船舶ラジコン利用等に場所を提供しました。

屋外プール利用実績(月別利用状況は P44) ◆屋外プールオフシーズン利用実績

施設名	利用人数
横浜プールセンター	109,862人
本牧市民プール	79,253人
合計	189,115人

種類	人数
ヨット教室	56人
インラインスケート	1,990人
ラジコン	231人
フリーマーケット	44人
合計	2,321人

屋内プール年間利用実績(月別利用状況は P44)

施設名	年間利用人数	水泳教室	参加人数	体操教室	参加人数
旭プール	112,463人	76教室	7,896人	24教室	3,830人
港南プール	121,204人	86教室	17,325人	—	—
栄プール	45,177人	72教室	15,308人	5教室	225人
保土ヶ谷プール	75,446人	190教室	22,043人	15教室	1,725人
都筑プール	130,144人	120教室	19,920人	—	—
金沢プール	167,093人	112教室	18,828人	19教室	1,265人
合計	651,527人	656教室	101,320人	63教室	7,045人

(9) 鶴見川漕艇場

ボート・カヌーの利用、貸出し等漕艇場の管理運営を行い、水上スポーツ・レクリエーションの普及・振興を図りました。

また、市民が気楽にボート・カヌー体験をできる教室を開催しました。



カヌー教室

◆年間利用実績（月別利用状況は P44） 教室実績

艇利用	4,222 艇
利用人数	21,114 人

教室名	教室数	人数
ボート・カヌー教室	5 教室	36 人

(10) テニスガーデン

緑テニスガーデン（10 面）、根岸テニスガーデン（9 面）及び泉中央テニスガーデン（11 面）において、子どもから大人まで参加できるテニス教室を開催するなど、市民のスポーツの普及振興に努めました。



根岸テニスガーデン

年間利用者数（月別利用状況は P44）

施設名	年間利用人数	貸しコート利用者数	教室参加人数
緑テニスガーデン	69,062 人	43,095 人	25,967 人
根岸テニスガーデン	76,099 人	19,249 人	56,850 人
泉中央テニスガーデン	45,090 人	27,747 人	17,343 人
合計	190,251 人	90,091 人	100,160 人

(11) 横浜みなとみらいスポーツパークの運営

みなとみらい 21 地区 60 街区に財団法人日本サッカー協会公認の人工芝フィールドを備える、横浜みなとみらいスポーツパークの運営を行い、10 月よりランニングステーションをオープンしました。

人工芝フィールドにおいて、サッカーを中心としたフィールド系スポーツ（サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール等）の拠点として利用促進を行いました。

利用実績（月別利用状況は P44）

種別	人数
総利用者数	424,185 人
フィールド利用	330,551 人
会議室利用	93,634 人



サッカー利用時

6 スポーツ情報の収集・提供

横浜市スポーツ情報センターにて、スポーツ情報を収集・案内するほか、スポーツ情報サイト及びスポーツ情報誌を通じて、市民へのスポーツ情報の提供を行いました。

(1) スポーツ情報サイトの運営・拡充

横浜市内及び近隣都市等のスポーツ情報を収集し、インターネットや情報誌などの媒体を通じて、市民へのスポーツ情報の提供を行いました。



また、スポーツ情報センター窓口や電話などでの情報提供も併せて行いました。インターネットを通じてスポーツや健康づくりへの関心を高めてもらうために、市民にとって有益なスポーツ情報を幅広く掲載・提供する Web サイト「ハマスポどっとコム」を運営しました。

サイト全体の大規模リニューアルを行い、新規コンテンツを増加させたことで、一層充実した内容に生まれ変わりました。

ア 「読む」コンテンツ・・・市内スポーツイベントなどの取材結果や市民からの投稿記事を、写真や動画を使って発信したほか、著名人コラムやスポーツ漫画、健康情報などを掲載しました。

イ 「健康づくり」コンテンツ・・・画面上でのトレーニングレッスンや閲覧者の運動記録管理、健康遊具設置公園の案内などにより、健康づくり支援を強化しました。また、ウォーキングのニーズに対応するために、市内のコース情報の地図等での一括案内のほか、自己の歩行記録管理機能を追加しました。

ウ 「探す」コンテンツ・・・スポーツ施設、サークル、教室・大会等の案内や結果、指導者紹介などの情報を、地図やカレンダーなどにより提供しました。

エ 「仲間づくり」コンテンツ・・・閲覧者同士の交流作りや対戦チームの検索機能などを展開しました。

○情報保有件数 9,383 件 (平成 22 年 3 月 31 日現在)

・施設情報	1,986 件	・サークル情報	723 件
・指導者情報	254 件	・イベント情報	7,670 件

○電話・窓口の問合せ件数 1,093 件 (平成 21 年度) (電話:878 件 来所:215 件)

○アクセス数実績

・ハマスポどっとコムページ全体	月平均約 530 千件
・トップページ	月平均約 55 千件

(2) スポーツ情報誌の発行

市民にとって有益なスポーツ情報や市体育協会や加盟団体の各事業を紹介するスポーツ情報誌「SPORTSよこはま」を、年 6 回、計 15 万部発行し、市内各所の PR ボックスや市役所市民情報センター、区役所広報相談窓口、公共施設、市内各駅などで無料配布しました。

〔主要な掲載内容〕

- 市体協加盟団体からの協力による記事掲載や各団体主催のイベント等事業紹介
- 市体協関連イベントの紹介・報告
- 横浜熱闘倶楽部 3 チームの選手や関連イベントの紹介
- 独自に取材・編集した特集記事の掲載
- 読者参加型企画の連載（横浜マラソンへの道〔20～60 歳代 6 名参加〕の本番出場までを取材）
- スポーツ医科学センターの協力による健康関連情報の掲載
- その他市民にとって有意義なスポーツ関係情報の掲載



情報誌

■平成21年度の加盟団体からの協力による企画等■

連載	<ul style="list-style-type: none"> ■【陸上】「読者参加企画『2009横浜マラソンへの道』」(H21.6～H22.2) ■【トライアスロン】トライアスロン世界大会への軌跡(H21.4～H21.10) 		
4月号	<ul style="list-style-type: none"> ■【野球連盟】特集「新しい球技『ティーボール』」紹介 ■【卓球】世界卓球大会直前情報 ■【馬術】事業紹介 ■【西区体協】事業紹介 ■【該当団体】80周年記念加盟団体提案行事紹介 	10月号	<ul style="list-style-type: none"> ■【陸上】横浜マラソン大会直前情報 ■【少林寺拳法】事業紹介 ■【カヌー】事業紹介 ■【戸塚区体協】事業紹介
6月号	<ul style="list-style-type: none"> ■【ヨット】事業紹介 ■【栄区体協】事業紹介 ■【サッカー・バレー・ハンド】ビーチフェスタ案内 	12月号	<ul style="list-style-type: none"> ■【トライアスロン】こどもスポーツサミット宣言文のI O C報告 ■【野球連盟】文部科学省生涯スポーツ優良団体表彰 ■【港南区体協】事業紹介
8月号	<ul style="list-style-type: none"> ■【トライアスロン】国際トライアスロン大会直前情報 ■【クレイ】事業紹介 ■【瀬谷区体協】事業紹介 ■【パワーリフティング】新規加盟案内 	2月号	<ul style="list-style-type: none"> ■【山岳】次年度連載企画「富士山への道」案内 ■【スキー】特集での市民向け教室の紹介 ■【アーチェリー】事業紹介 ■【体操】事業紹介 ■【南区体協】事業紹介

(3) スポーツに関する調査研究

横浜市に居住する満20歳以上の男女(外国人登録者を含む)、4,000人を対象に、「市民スポーツ意識調査」を1月に実施し、集計・分析を行いました。

- 住民基本台帳及び外国人登録原票から各区人口比率により無作為抽出
- 郵送による質問紙法
- 平成22年1月18日発送、2月10日締切
- 発送数：4,000件 有効回答数：1,577件 回収率：39.4%
- 質問内容：過去1年間のスポーツ・運動実施種目、頻度、実施又は非実施理由、クラブ等に関する考え方、情報入手方法、公共スポーツ施設に関する要望、地域のスポーツ振興に対する考え方、スポーツがしやすい環境条件(支払金額や活動範囲)

7 スポーツ団体等の育成事業

その他市民のスポーツ振興の目的を達成するために様々な事業を実施しました。

(1) スポーツ振興基金の運用

ア よこはまスポーツ振興基金の運用

かながわ・ゆめ国体横浜市実行委員会からの寄付金を基に設置した「よこはまスポーツ振興基金」を、各種スポーツ・レクリエーション団体の事業に助成し、幅広い市民スポーツの振興を図りました。

申請件数：43件

交付決定件数：39件

交付決定額：20,422,000円

イ ワールドカップ決勝戦開催記念基金の運用

横浜市からの補助金を基に、「2002 F I F Aワールドカップ」の決勝戦開催を記念して設置された基金を、横浜市、(社)横浜サッカー協会等とともに構成する運営委員会により運用しました。

横浜熱闘倶楽部など 合計 26,517,000円助成

(2) 加盟団体への助成

加盟団体に対し運営費・事業費の補助を行いました。

団体数：70団体

助成額合計：3,700,000円

競技団体・地域団体 (50,000円×67団体) 3,350,000円助成

学校体育団体 横浜市立小学校体育研究会 100,000円助成

横浜市立中学校体育連盟 200,000円助成

横浜地区高等学校体育連盟 50,000円助成

(3) 横浜熱闘倶楽部

市民とともに地元プロスポーツチーム(横浜ベイスターズ、横浜F・マリノス、横浜FC)の支援を行い、市民の連帯感の醸成と市民スポーツの振興を行う事業の事務局を担いました。

○主な事業

- ・公式戦への市民招待・区民招待 25,951人
- ・少年野球教室の開催 5,721人
- ・ふれあいサッカープロジェクト等の開催 22,307人
- ・各種広報PR事業 等



熱闘開幕ダッシュイベント



開幕試合

(4) 交流・顕彰事業

市民のスポーツ活動の啓発を図るため、交流事業及び表彰事業を実施しました。

ア 交流事業

横浜市のスポーツ関係者の交流促進を図るため、「新春横浜スポーツ人の集い」を開催しました。

○開催日：平成22年1月15日（金）

○参加者：約1,300人

イ スポーツ表彰事業

各種スポーツ大会において、顕著な成績をおさめた個人・団体やスポーツ振興に寄与した個人を表彰する横浜スポーツ表彰を実施しました。

○個人：165人

○団体：11チーム



交流事業



スポーツ表彰事業

(5) 教育施設協力町村児童受入れ事業の実施

少年自然の家等が設置されている、群馬県昭和村（赤城林間学園）、静岡県南伊豆町（南伊豆臨海学園）、山梨県道志村（道志青少年野外活動センター）の各町村の児童に横浜市海事広報艇「はまどり」乗船、開国博 Y150、日産横浜工場や川井浄水場の見学など、横浜の様子や歴史を学んでもらうことで、各町村との交流を深める事業を行いました。

ア 昭和村児童受入れ事業

平成21年9月16日～17日 児童・引率 86人

イ 道志村児童受入れ事業

平成21年10月1日～2日 児童・引率 21人

ウ 南伊豆町児童受入れ事業

平成22年1月20日～21日 児童・引率 86人



Y150 会場の昭和村児童

8 その他事業

(1) 危機管理体制の取組

市民が安全・安心・快適に施設利用ができるよう、市民の身近なスポーツセンター等の施設利用に対する日常の危機管理体制を整えるとともに、日産スタジアムや横浜文化体育館等のイベント開催時及び開港 150 周年記念事業として「H. I. S. 2009 年世界卓球選手権横浜大会」、「2009 横浜国際トライアスロン大会」等の開催時の危機管理体制を強化し円滑に事業を実施しました。

(2) 財政の確立

各種事業の一層の充実と発展を図るとともに、安定した施設運営の財政基盤を拡充するため、施設管理事業会計から残余財産を原資に財政調整基金の積立を行いました。

(3) 社会的責任への取組

コンプライアンスの推進の観点から、経理関係などの内部監査を実施するとともに、個人情報保護マネジメントシステム（JISQ15001 の基準により、個人情報保護法より厳しい取組）の継続を含めた事務事業の適正執行を監査し、P D C A サイクルに則った行動改善を進めました。また、外部監査の実施、職員行動基準の明示などにより、組織の内部管理体制を強化しました。



プライバシーマーク

(4) 駐車場の運営

横浜アリーナに近接する新横浜駐車場他、7箇所駐車場の運営を行いました。

年間利用台数

種別	台数
月極駐車場	2,820 台
時間貸駐車場	63,909 台